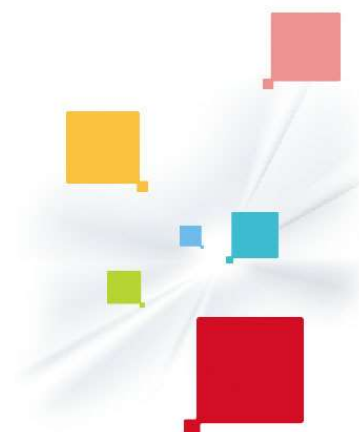


# FY2023 H1 決算概要

2023年 11月8日  
株式会社リコー



本資料に記載されている、リコー(以下、当社)の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。従って、実際の業績は異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠なさらないようお願い致します。

実際の業績に影響を与える重要な要素には、a) 当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、b) 為替レートの変動、c) 当社の事業領域に関連して発生する急速な技術革新、d) 激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品・サービスを当社が設計・開発・生産し続ける能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。(参照：「事業等のリスク」<https://jp.ricoh.com/IR/risk.html>)

本資料に他の会社・機関等の名称が掲載されている場合といえども、これらの会社・機関等の利用を当社が推奨するものではありません。本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

**本資料における年号の表記：4月から始まる会計年度の表記としております。**

(例) FY2023 (2023年度)：2023年4月から2024年3月までの会計年度

### 事業区分の変更等について

当連結会計年度より、その他分野のPFU事業および一部共通費用を、リコーデジタルプロダクトとリコーデジタルサービスに事業区分変更を行いました。

## **FY2023 H1 決算概要**

- 取締役・CFO 川口俊

## 業績

- 増収減益、営業利益は想定に届かず
  - ✓ MFP販売台数の回復が見立てを下回り、生産調整や製品ミックスの影響が継続
  - ✓ サーマル事業が欧州中心に景気弱含みの影響により販売未達
  - ✓ 一部の資産・事業売却の実現が下期以降に期ずれ
- オフィスサービス事業は増収増益、ストック売上は前年比21%増加し順調に収益基盤を積み上げている  
日本ではスクラムシリーズが好調、販売計画超過  
欧州では景気弱含み・ICT商材需要低迷の影響があるが、買収企業中心に引き続き堅調推移
- リコーグラフィックコミュニケーションズは増収増益、為替効果や支出抑制も含め計画超過

## 見通し

- 上期の状況を踏まえ、為替、市場環境や各事業の前提条件を見直す  
営業利益 700億円、ROE 5%の見通し

## 株主還元

- 中間配当は18円（年間36円）の予定は変更なし

- FY2023 H1決算のポイントをお伝えします。
- FY2023 H1は、増収減益となりました。営業利益は、第1四半期決算でお伝えした想定には届いておりません。理由は、以下の3つです。
  - 1つ目が、A3MFP販売台数の回復が当初の見立てを下回ったことによる、リコーデジタルプロダクツ（RDP）における生産調整の継続、製品ミックスの低下
  - 2つ目が、サーマル事業における、欧州を中心に景気の弱含みの影響等による減収減益
  - 3つ目が、一部の資産・事業売却の予定の変更
 先日公表したオプティカル事業の売却について、当初は上期に予定していましたが、下期以降に後ろ倒しになりました。
- なお、オフィスサービス事業は、増収増益となりました。ストック売上は前年比21%増加で、順調に収益基盤を積み上げています。地域別に、日本では、スクラムシリーズが好調に推移しています。前年比159%の増収、約650億円まで届いています。欧州は、景気の弱含みがありICT商材の需要が低迷していますが、買収企業によるサービスビジネスを中心に引き続き堅調です。
- リコーグラフィックコミュニケーションズ（RGC）は、為替効果、構造改革の費用等で増収増益になっています。このような上期の結果を受け、下期想定の見直しを行いました。為替の他、市場環境や各事業の前提条件を見直し、通期売上を23,300億円、営業利益は700億円維持、ROE5%といたしました。
- なお、中間配当は、上期18円、年間36円で、当初の予定に変更はありません。

	FY2022 H1	FY2023 H1	前年同期比	
売上高	9,735億円	<b>11,125億円</b>	<b>+1,390億円</b>	+14.3%
売上総利益	3,462億円 (35.6%)	3,862億円 (34.7%)	+399億円	+11.5%
販管費等	3,228億円 (33.2%)	3,667億円 (33.0%)	+438億円	+13.6%
<b>営業利益</b>	234億円	<b>195億円</b>	<b>-38億円</b>	-16.6%
営業利益率	2.4%	1.8%	-0.6pt	-
親会社の所有者に帰属する <b>当期利益</b>	149億円	<b>156億円</b>	<b>+7億円</b>	+4.7%
EPS	23.87円	25.63円	+1.76円	
期中平均 為替レート	1USDドル 1ユーロ	133.92円 153.36円	+7.00円 +14.66円	
研究開発投資	497億円	549億円	+51億円	
設備投資 (有形固定資産)	184億円	219億円	+34億円	
減価償却費 (有形固定資産)	204億円	214億円	+9億円	

- 連結損益計算書です。

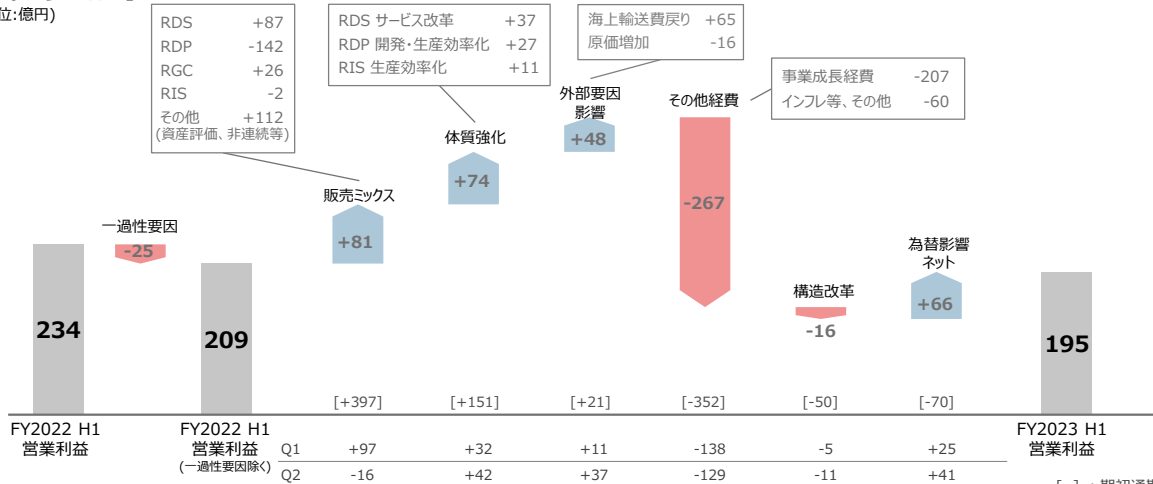
FY2023 H1は増収、営業利益では減益、なお当期営業利益はかろうじて増益となりました。

# 要因別営業利益

- ✓ 販売ミックスはOPハードが想定に対し弱含み、RISのサーマルが市場在庫調整・需要弱含みで下振れ
- ✓ 体質強化及び外部要因影響は想定通り
- ✓ その他経費はPFU連結で増加も計画内でコントロール

## 【前年からの増減】

(単位:億円)



Nov 8, 2023

© Ricoh

[ ] : 期初通期見直し

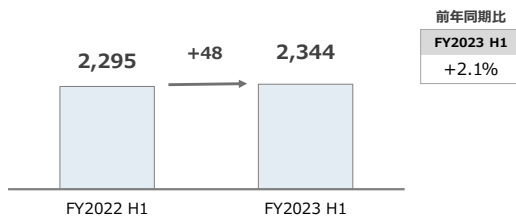
5

- 要因別の営業利益の状況です。
- 前年度H1営業利益234億円から当期の195億円までの主な要因についてご説明します。  
まず、販売ミックスは+81億円と、年間計画+397億円、うち上期計画である約+250億円に対して届いていません。最も大きな理由が、リコデジタルプロダクツ（RDP）の-142になります。  
A3MFPの販売台数未達により生産調整が継続したことで生産側の利益が計画に対し減少、またA3MFPの出荷台数減による製品ミックスの悪化も影響しました。
- 体質強化については、年間計画で+151億円を目指しており、予定通り進んでいます。
- また、外部要因は、海上輸送費はしっかりと戻ってきています。こちらは少し保守的に今後も見えていく予定ですが、さらにプラスになる可能性はあると考えています。
- その他経費が-267億円とかなり大きな数字ですが、このうちの半分は、昨年9月に買収したPFUの経費となります。よって、PFUを除いた半分の約-130億円については、-60億円がインフレ等による人件費上昇、またそれ以外のコストアップなどが含まれています。

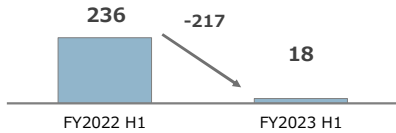
# リコーデジタルプロダクツ

MFP生産調整・製品ミックスやスキャナ販売不振等により増収減益

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



※その他に計上していたPFU事業の一部をリコーデジタルプロダクツに移管。  
また、2022年度第3四半期より、リコーデジタルプロダクツにリコーインダストリアルソリューションズのエレクトロニクス事業を移管。  
2022年度についても適及適用。

Nov 8, 2023

© Ricoh

## 概況

- A3MFPの生産調整による内売減少やA4MFP増産に伴う製品ミックスにより粗利未達
- 体質強化は計画通り進捗
- 米州での景気弱含みによりスキャナ販売が想定を下回る
- 東芝テックとのジョイントベンチャー組成に向けて準備中

## ジョイントベンチャー概要

- 複合機を中心としたエッジデバイスの開発と生産を一貫して行う  
出資比率 : リコー85% 東芝テック15%
- FY2024 Q1の組成を予定

### ①競争力の高い商品の提供

- ✓ 技術シナジーの創出による魅力ある商品開発
- ✓ スケールメリットによるコスト競争力強化
- ✓ 生産拠点の最適化による安定した製品供給担保 など

### ③技術・ノウハウの蓄積と共有による新規商材・エッジデバイスの創出

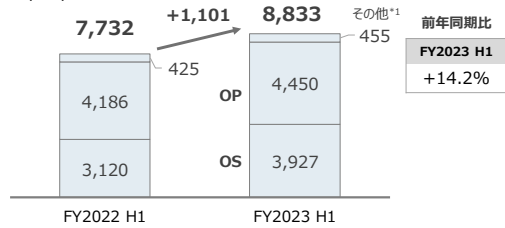
### ②更なる供給先の獲得による事業拡大

- ビジネスユニットごとに説明します。
- リコーデジタルプロダクツ (RDP) です。詳細は、先ほどお伝えした通りになります。
- 今回、スライド右下に、東芝テック様とのジョイントベンチャーの考え方のまとめを掲載しました。

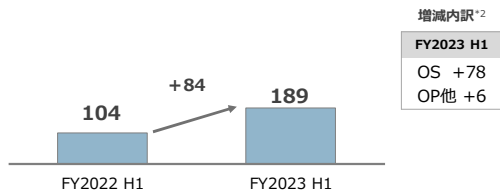
# リコーデジタルサービス

オフィスサービスが引き続き利益成長を牽引、営業利益計画達成

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



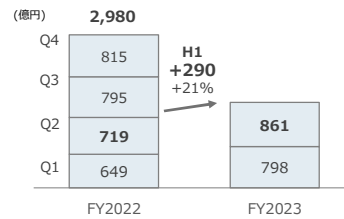
\*1 環境ソリューション、産業ソリューションなど  
\*2 社内管理の利益に基づき試算

※その他に計上していたPFU事業の一部をリコーデジタルサービスに移管。  
また、オフィスプリンティングに計上していた一部事業をオフィスサービスに移管。2022年度についても適及適用。

## 概況

- オフィスプリンティング（販売）増収率：為替影響除く  
ハード 8%増収、販売台数未達もプライシングコントロールで対応  
ノンハード 2%減収、ほぼ想定通り
- オフィスサービス  
ITサービス・アプリケーションサービス中心に増収  
成長投資によるコミュニケーションサービス伸長  
ストック売上は21%増収、収益基盤成長を継続

## OSストック売上

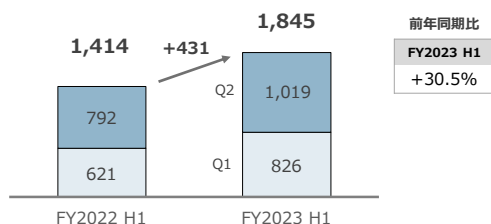


- リコーデジタルサービス（RDS）全体です。
- FY2023H1では、増収増益となり、中でも特に重視しているオフィスサービス（OS）ストック売上が前年比21%伸長と、順調に進捗しています。



スクラムシリーズ継続伸長、ITサービス・アプリケーションサービスでのストック形成が着実に進展

## 売上高 (億円)



- スクラムパッケージ (中小企業ターゲット)
  - ✓ Q2も順調に伸長し、H1売上高前年比130%
  - ✓ インボイス制度対応などのバックオフィス系やセキュリティ関連が牽引
- スクラムアセット (中堅企業ターゲット)
  - ✓ 引き続き高い伸び率で、H1売上高前年比193%
  - ✓ 働き方改革やセキュリティ関連の需要が強い
  - ✓ PC入替え需要開始、付帯サービスが好調
- RICOH kintone plus
  - ✓ 契約数が順調に伸長

## 分野別動向 (億円)

(為替影響除く)

FY2023 H1	売上高	前年同期比
<b>オフィスサービス 計</b>	<b>1,845</b>	<b>+31%</b>
ITインフラ (ハード・ソフト)	802	+37%
<b>ITサービス</b>	<b>478</b>	<b>+44%</b>
<b>アプリケーションサービス</b>	<b>456</b>	<b>+17%</b>
コミュニケーションサービス	88	+0%
BPS	20	+6%

## スクラムシリーズ実績 (億円)

FY2023 H1	売上高	前年同期比
スクラムパッケージ	285	130%
スクラムアセット	363	193%
<b>合計</b>	<b>648</b>	<b>159%</b>

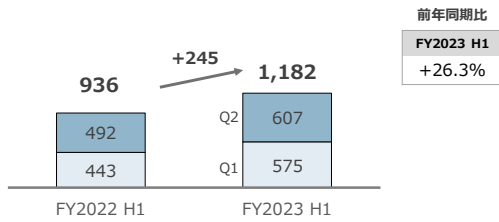
FY2023 H1	販売本数	前年同期比
スクラムパッケージ	42,353	112%

- オフィスサービス事業について、さらに地域ごとに説明します。
- 日本では、スクラムシリーズが好調です。スクラムパッケージでは、インボイス制度対応関連の商材等が業績を牽引しました。また、スクラムパッケージ、スクラムアセットとともにバックオフィス、セキュリティ関連の商材が好調に推移しました。

## リコーデジタルサービス オフィスサービス概況：欧州

景気弱含みの影響は見えるが、アプリケーションサービスを中心に高い成長率を継続

### 売上高 (億円)



- 景気弱含みでIT商材に影響があるが、買収企業中心にサービスビジネスは好調継続（買収企業 141%増収）

- DocuWare等、アプリケーションサービスが引き続き好調  
ストック積み上げに貢献

- 2023年6月にPFHを買収

- ✓ PFHは欧州ビジネスハブかつIT産業の集積地であるアイルランドを拠点にITサービスを展開
- ✓ 獲得した顧客基盤・ノウハウを活かし、汎欧でのシナジー創出とデジタルサービス展開を加速

### 分野別動向 (億円)

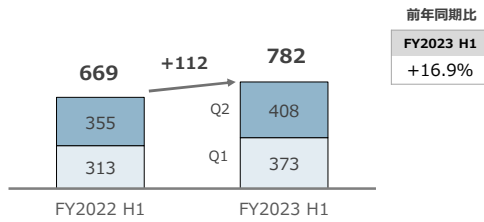
FY2023 H1	売上高	前年同期比	(為替影響除く)
オフィスサービス 計	1,182	+26%	+14%
ITインフラ (ハード・ソフト)	448	+34%	+21%
ITサービス	314	+26%	+14%
アプリケーションサービス	153	+31%	+18%
コミュニケーションサービス	144	+21%	+9%
BPS	121	+6%	-4%

- 欧州では、買収企業を中心に堅調に推移しています。
- 今年6月には、アイルランドに拠点を持つPFH社を買収しました。PFH社は、長年検討していた会社であり、一緒になった今後は、汎ヨーロッパでのシナジー創出を期待しています。

# リコーデジタルサービス オフィスサービス概況：米州

Cenero社のコミュニケーションサービスが大手企業中心に拡大

## 売上高 (億円)



## 分野別動向 (億円)

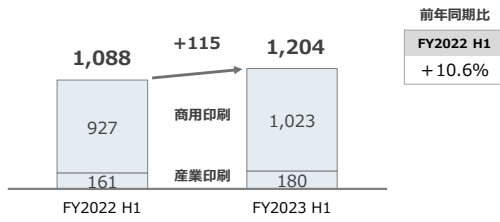
FY2023 H1	売上高	前年同期比	(為替影響除く)
<b>オフィスサービス 計</b>	<b>782</b>	<b>+17%</b>	<b>+11%</b>
ITインフラ (ハード・ソフト)	40	+4%	-1%
ITサービス	77	+1%	-4%
アプリケーションサービス	109	+21%	+15%
コミュニケーションサービス	75	+313%	+292%
BPS	479	+8%	+2%

- 重点業種 (医療・金融・小売・保険・製造) 向けのサービス継続強化
- BPSは、更なる収益改善に取り組む
  - ✓ 自動化による作業効率化とプライシングコントロール
- Cenero社とのシナジー創出を進める (2022年9月買収)
  - ✓ 強みとするマネージドAVサービスを米州既存顧客へ展開  
100件以上のパイプライン創出
  - ✓ グローバルでのコミュニケーションサービス拡大に向け、  
案件創出を進む

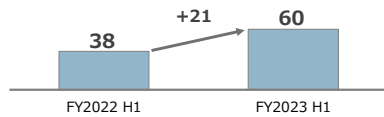
- 米州では、昨年買収したコミュニケーションサービス会社であるCenero社が強みとするマネージドAVサービスの米州顧客への展開が進んでおり、ストック売上積上げへの貢献が始まっています。

増収増益、構造改革費用は想定を下回る

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



## 概況

### ● 商用印刷

ハード：デジタル印刷への投資意欲は継続  
高画質・用紙対応力・業務負荷低減を実現した  
新製品によりパイプライン充実

ノンハード：継続伸長、コロナ前の水準を超える

### CP売上前年同期比 (為替影響除く)

#### ハード・ノンハード別

	FY22				FY23	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
ハード	114%	121%	129%	137%	105%	110%
ノンハード	110%	108%	102%	105%	104%	101%

#### 地域別

	FY22				FY23	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
日本	103%	105%	95%	111%	88%	95%
米州	112%	112%	119%	122%	106%	109%
欧州	116%	112%	104%	120%	102%	99%

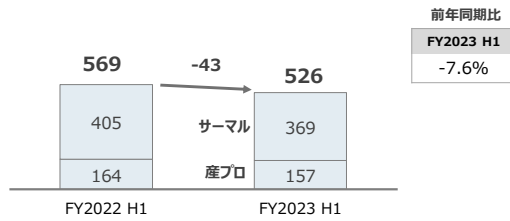
### ● 産業印刷

IJヘッド：積層ヘッドの需要は引き続き堅調、増収継続

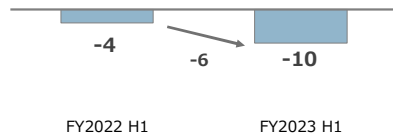
- リコーグラフィックコミュニケーションズ（RGC）です。
- 商用印刷のハード、ノンハードともに昨年度を上回った数字が出ています。新商品を発売し、パイプラインを充実させています。下期以降の業績貢献を期待しています。

顧客の在庫調整と需要弱含みのサーマル事業が苦戦、減収減益

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



## 概況

- サーマル
  - ✓ 欧米で市場在庫調整はピークアウトしてきたが、欧州での景況弱含み等により需要鈍化
  - ✓ 購買・生産効率化によるコストダウンおよびプライシングコントロールは継続
  - ✓ 完成品までのトータルソリューションの提供は順調に進展  
日本でラベルレスサーマルの顧客開拓進む
- 産業プロダクツ
  - ✓ オプティカルはプロジェクトが中国景気停滞で減収  
自動車用途は回復。来期の事業売却を発表

※2022年度第3四半期より、エレクトロニクス事業をリコーデジタルプロダクツに移管。2022年度についても適及適用。

Nov 8, 2023

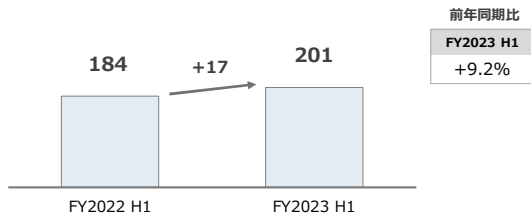
© Ricoh

- リコーインダストリアルソリューションズ（RIS）です。
- サーマル事業が残念な結果になりました。プライシングコントロールは継続し、下期は既にコストダウンに着手しています。業績については、少しでも挽回したいと考えています。

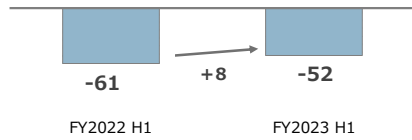
# その他

新規事業分野にて経費コントロールを進める

## 売上高 (億円)



## 営業利益 (億円)



※その他に計上していたPFU事業をリコ-デジタルサービス、リコ-デジタルプロダクツに移管。

## 概況

- Smart Vision  
データサービスは増収継続も高機能モデルの販売が低迷  
顧客要望対応等で挽回進める
- 創薬支援  
研究段階の製造受託好調  
治験薬製造受託サービスの顧客開拓強化
- 新規事業の事業ポートフォリオ管理徹底
- カメラ  
好調継続

# 連結財政状態計算書

総資産は為替影響除くと実質504億円減少

棚卸資産は、下期需要に応じた先行調達や為替影響による増加はあるが、販売在庫は想定通り減少。年度末に向けてさらに最適化を進める

## 資産の部

(単位:億円)	2023年 9月末	23/03末比 増減額	
流動資産	11,571	-181	
現金及び預金	1,626	-594	戦略投資、借入返済
営業債権及びその他の債権	4,692	-71	
その他の金融資産	1,032	+93	
棚卸資産	3,406	+262	先行調達 工場在庫形成
その他の流動資産	814	+129	
非流動資産	10,536	+789	
有形固定資産	2,016	+51	
使用権資産	599	+29	
のれん及び無形資産	4,062	+398	戦略投資 (欧州ICT投資等)
その他の金融資産	1,553	+201	
その他の非流動資産	2,304	+108	
資産合計	22,107	+608	

## 負債及び資本合計の部

(単位:億円)	2023年 9月末	23/03末比 増減額
流動負債	8,560	+269
社債及び借入金	1,717	+139
営業債務及びその他の債務	2,807	-316
リース負債	224	-37
その他の流動負債	3,811	+484
非流動負債	3,245	-382
社債及び借入金	1,754	-296
リース負債	463	+81
退職給付に係る負債	406	-4
その他の非流動負債	620	-163
負債合計	11,805	-113
親会社の所有者に帰属する 持分合計	10,042	+727
非支配持分	259	-5
資本合計	10,302	+721
負債及び資本合計	22,107	+608
有利子負債合計*	3,472	-157

(参考) 期末日為替レート: US\$ 1 = ¥ 149.58 (+16.05)  
EURO 1 = ¥ 158.00 (+12.28)  
(23/03末比増減)

\*有利子負債: 社債及び借入金

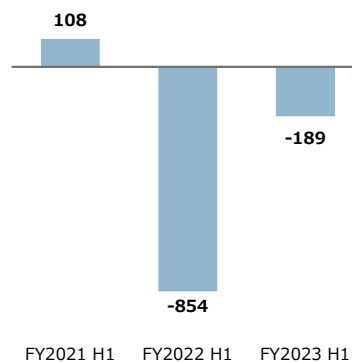
- 連結財政状態計算書です。
- 大きな傾向の変化はありません。
- ただし、現預金が594億円減少しています。これは、在庫の増加、買収、さらに有利子負債の返済に充てたことによります。
- 全体として為替影響で膨らんでおり、為替影響を除くと総資産は504億円減少しています。

# 連結キャッシュフロー計算書

欧州ICT企業買収など戦略投資実施も、前年度にはPFU買収もあり、フリーキャッシュフローは前年度対比で支出減少

(単位:億円)	FY2022 H1	FY2023 H1
当期利益	153	<b>153</b>
減価償却費	450	<b>530</b>
その他の営業活動	-641	<b>-369</b>
営業活動によるキャッシュフロー	-37	<b>314</b>
有形固定資産の取得及び売却	-167	<b>-216</b>
事業の買収	-486	<b>-131</b>
その他の投資活動	-163	<b>-156</b>
投資活動によるキャッシュフロー	-817	<b>-503</b>
有利子負債*の純増減 <small>*社債及び借入金</small>	983	<b>-223</b>
支払配当金	-82	<b>-103</b>
自己株式の取得	-300	<b>-0</b>
その他の財務活動	-160	<b>-166</b>
財務活動によるキャッシュフロー	440	<b>-493</b>
換算レートの変動に伴う影響額	115	<b>103</b>
現金及び現金同等物の純増減額	-298	<b>-579</b>
現金及び現金同等物期末残高	2,041	<b>1,529</b>
フリーキャッシュフロー(営業C/F+投資C/F)	-854	<b>-189</b>

フリーキャッシュフロー推移 (単位:億円)





## **FY2023 通期見通し**

## FY2023 見通し <主要指標>

	FY2023 期初見通し	FY2023 今回見通し	期初比	FY2022 実績	FY22比	
売上高	22,500億円	<b>23,300</b> 億円	+3.6%	21,341億円	+9.2%	
売上総利益	7,900億円	8,150億円	+3.2%	7,454億円	+9.3%	
販管費等	7,200億円	7,450億円	+3.5%	6,666億円	+11.7%	
営業利益	700億円	<b>700</b> 億円	-	787億円	-11.1%	
営業利益率	3.1%	3.0%	-0.1pt	3.7%	-0.7pt	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	500億円	500億円	-	543億円	-8.0%	
EPS	82.09円	<b>82.09</b> 円	-	88.13円	-6.04円	
ROE	5.3%	<b>5%</b>	-0.3pt	5.9%	-0.9pt	
ROIC	4.1%	<b>4%</b>	-0.1pt	4.9%	-0.9pt	
期中平均 為替レート*	1USD 111-135円	125円 135円	142.96円 154.18円	+17.96円 +19.18円	135.49円 140.91円	+7.47円 +13.27円
研究開発投資	1,080億円	1,080億円	-	1,077億円	+2億円	
設備投資(有形固定資産)	480億円	480億円	-	454億円	+25億円	
減価償却費(有形固定資産)	430億円	430億円	-	419億円	+10億円	

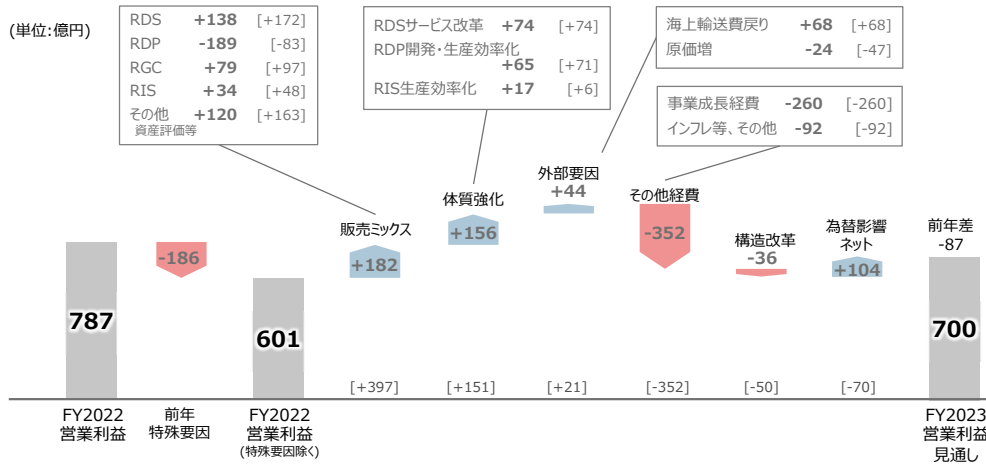
\*FY2023 H2 想定為替レート: US\$1=¥145, EURO1=¥155

- 2023年度の見通しです。上期の状況、特に8、9月の状況から下期の見通しをもう一度全社で再検討した結果、FY2023年度の見通しを変更しました。
- 売上高は2兆3,300億円と800億円の上方修正になります。営業利益は700億円で維持、営業利益率3%、ROEは5%の見通しとしています。
- 今回の見直しの中には、為替前提の変更があります。期初前提は、ドル125円、ユーロ135円でしたが、ドル142円、ユーロ154円（下期をドル145円、ユーロ155円）に変更しました。
- また、下期にかけては、様々な販促施策を行っていきます。一部の競合との厳しい戦いも欧州ではありますが、そこについては、全面的に受け入れて戦うつもりはございません。大事なお客様、MIFについて維持するための限定的な対応に留めたいと考えています。

# FY2023見通し 要因別営業利益

- ✓ 海外の市況変化やオフィスプリンティングでの価格攻勢等を踏まえ、販売ミックスを見直し
- ✓ インフレ等その他経費は期初想定を維持
- ✓ 為替前提を変更

## 【前年からの増減】



## 主な指標

### RDS オフィスプリンティング

売上前年比	ハード	107%
	ノンハード	99%

### RDS オフィスサービス

スクラムパッケージ売上	611億円
スクラムアセット売上	679億円

## 参考 為替感応度\*

(億円)	売上	営業利益
USDドル	44	1
ユーロ	37	8

\*1円の変動による年間影響額

[ ] : 期初見通し

- 要因別営業利益です。
- 下期の販売ミックスは直近の状況は考慮しつつも上期に対しては改善を見込んでいます。

## セグメント別 売上・営業利益

		(単位：億円)	FY2022 実績	FY2023 見通し (前回)	FY2023 見通し (今回)	前回差
リコデジタルサービス	売上		16,843	17,503	18,000	+497
	営業利益		313	379	434	+55
リコデジタル プロダクツ	売上		4,934	5,266	4,970	-295
	営業利益		347	309	214	-95
リコグラフィック コミュニケーションズ	売上		2,348	2,530	2,720	+190
	営業利益		145	15	109	+94
リコインダストリアル ソリューションズ	売上		1,163	1,420	1,352	-67
	営業利益		31	84	61	-22
その他 (カメラ、新規事業他)	売上		405	501	465	-36
	営業利益		-94	-69	-91	-22
全社・消去	売上		-4,353	-4,720	-4,207	+512
	営業利益		43	-19	-28	-8
合計	売上		<b>21,341</b>	<b>22,500</b>	<b>23,300</b>	<b>+800</b>
	営業利益		<b>787</b>	<b>700</b>	<b>700</b>	<b>0</b>

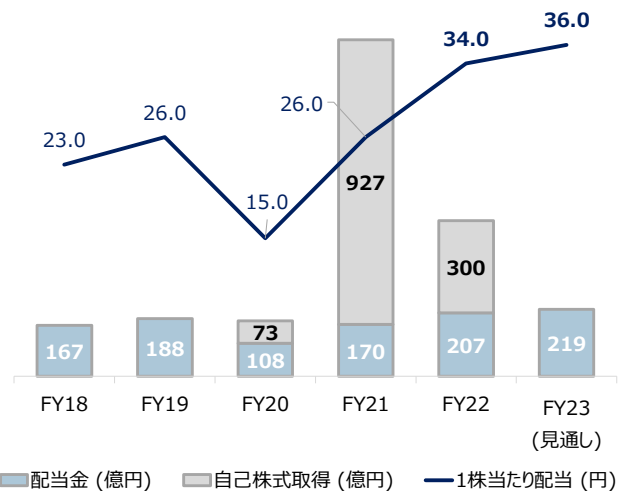
- セグメント別 売上・営業利益は、全体見通しの修正に伴い、前回から変更となっています。

## 株主還元

期初見通しから変更なし

**RICOH**  
imagine. change.

- 総還元性向50%を目安とする方針
- 継続的な増配と自己株式取得によるEPSの向上  
2023年度の配当の予定：年間36円に増配  
(中間18円 期末18円)
- キャッシュフローアロケーションを継続検証し、  
経営環境や成長投資の状況を踏まえつつ  
機動的に資本政策を実行



- 株主還元は、期初見通しから変更ございません。

**補足資料**

# セグメント概要

セグメント	主な事業・機能	主な製品・サービス
リコーデジタル サービス RDS	オフィスサービス (OS)	ITインフラ (ハード含む)、ITサービス、アプリケーションサービス、 コミュニケーションサービス (ハード含む)、BPS (Business Process Services)
	オフィスプリンティング (OP) [販売]	ハード：MFP、プリンタ ノンハード：消耗品、サービス・サポート
	その他	各地域での独自に展開するビジネス (環境エネルギー、サービスアドバンテージ、他)
リコーデジタル プロダクツ RDP	オフィスプリンティング (OP) [開発・生産]	ハード：MFP、プリンタ、コミュニケーションデバイス ノンハード：消耗品 その他：スキャナ、電装ユニット
リコーグラフィック コミュニケーションズ RGC	商用印刷 (CP)	ハード：プロダクションプリンタ ノンハード：消耗品、サービス・サポート
	産業印刷 (IP)	ハード：IJヘッド、産業プリンタ ノンハード：消耗品、サービス・サポート
リコーインダストリアル ソリューションズ RIS	サーマル	サーマルペーパー、熱転写リボン、ラベルレスサーマル
	産業プロダクツ	産業用光学部品、精密機器部品、産業設備

RDSへの  
セグメント間売上  
および OEM

# 主要施策のKPI

分野	KPI	FY21	FY22	FY23		
		実績	実績	期初見通し 年間	H1 進捗・実績	
RDS (OP)	ハード売上 前年同期比 (除為替影響)	売上	96%	111%	107%	108%
	ノンハード売上 前年同期比 (除為替影響)	売上	104%	101%	99%	98%
	サービス改革	経費削減	130億円	101億円	74億円	37億円
RDS (OS)	日本：スクラムパッケージ	売上	484億円	494億円	611億円	285億円
	日本：スクラムアセット	売上	313億円	577億円	679億円	363億円
	ストックビジネス	売上	-	2,980億円	FY25 目標 3,800億円 CAGR 8%(FY22比)	1,660億円 +21%(FY22比)
RDP	開発・生産効率化	経費削減	122億円	58億円	71億円	27億円
RIS	生産効率化	経費削減	130億円	101億円	6億円	11億円



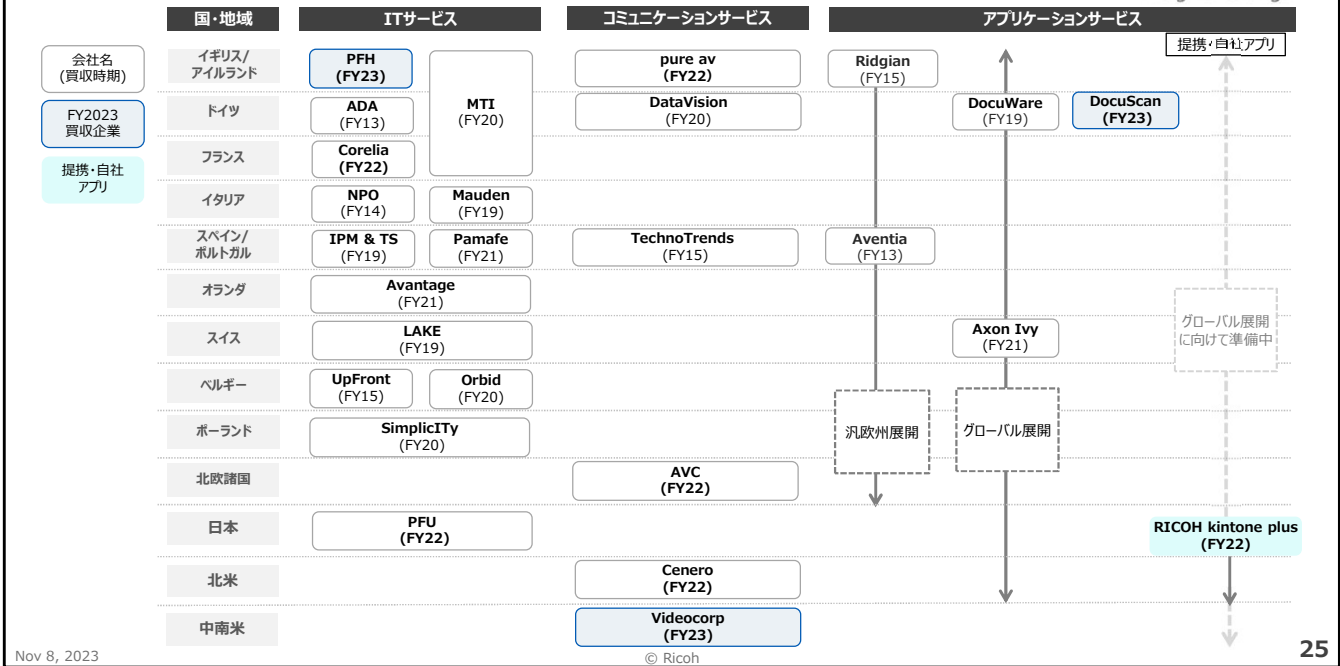
# デジタルサービスの会社へ向けて

デジタルサービス売上比率	FY22	FY23 H1	FY23計画
現場のデジタル化	44%	46%	49%
オフィスのデジタルサービス	7% 37%	7% 39%	8% 40%

FY25目標	オフィスサービスの成長を中心に実現 全体も伸長
60%超	
13% 50%	

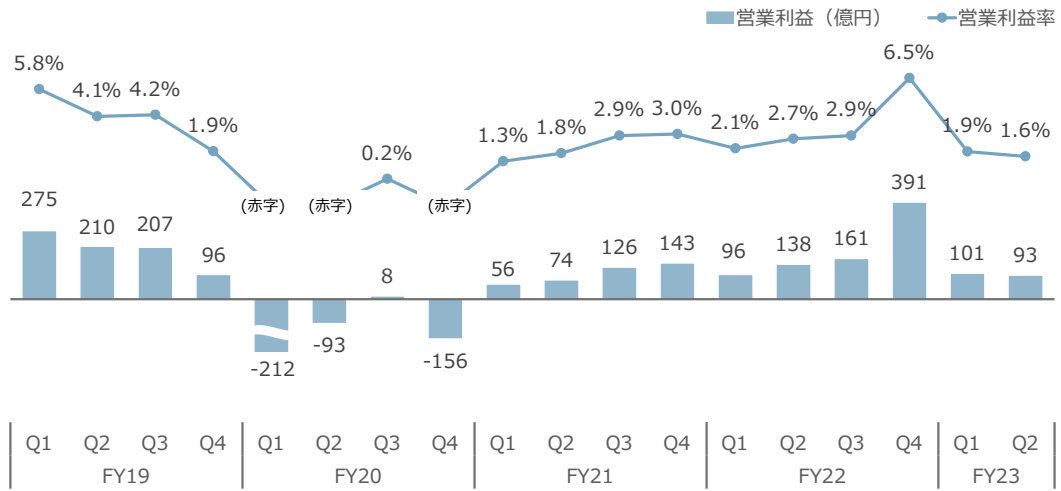


# 各地域 体制強化の進捗状況



- 最後に、各地域 体制強化の進捗状況になります。

# 四半期営業利益推移



## オフィスプリンティング

(為替影響除く)

売上高 前年同期比	FY2022				FY2023	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
ハード	96%	106%	117%	124%	110%	<b>105%</b>
ノンハード	101%	103%	100%	100%	99%	<b>97%</b>

## 地域別 (ハード+ノンハード)

(為替影響除く)

売上高 前年同期比	FY2022				FY2023	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
日本	98%	107%	100%	108%	100%	<b>99%</b>
米州	119%	133%	113%	110%	103%	<b>103%</b>
欧州	107%	105%	106%	110%	105%	<b>100%</b>

## オフィスサービス

売上高 (億円)	FY2022				FY2023			前年同期比 (為替除)
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	H1	
オフィスサービス	1,426	1,694	1,858	2,199	1,829	<b>2,097</b>	<b>3,927</b>	+21%
ITインフラ	457	543	629	812	615	<b>714</b>	<b>1,329</b>	+28%
ITサービス	302	372	421	475	410	<b>479</b>	<b>890</b>	+27%
アプリケーションサービス	289	329	327	440	343	<b>403</b>	<b>746</b>	+17%
コミュニケーションサービス	94	146	171	168	154	<b>176</b>	<b>330</b>	+30%
BPS	282	302	308	303	305	<b>324</b>	<b>630</b>	+2%

## 各分野における主な事業内容

### ITインフラ：

IT環境構築やセキュリティサービス提供に伴う、ハード・ソフトの売上。主に仕入れ

### ITサービス：

IT環境構築やセキュリティサービス提供に伴う、導入・構築・運用保守

### アプリケーションサービス：

自社製・仕入れのアプリケーションソフトの導入・構築・運用保守  
 自社ソフトウェアは、DocuWareやRICOH kintone plus、  
 ドキュメントソリューション製品など

### コミュニケーションサービス：

コミュニケーション環境構築に伴う、導入・構築・運用保守、マネージドサービス  
 自社エッジデバイスの販売含む

### BPS (Business Process Services)：

顧客出力センターの受託ビジネスと、その顧客基盤を活用した新規サービス等

## オフィスサービス

2023年 6月 リコージャパン、「CYBOZU AWARD 2023」セールス部門賞、インテグレーション部門賞およびエリア賞2部門を受賞  
リコージャパン、マイクロソフト ジャパン パートナー オブザイヤー 2023受賞

9月 リコー、米国IDC社の2023年プリント・トランスフォーメーションの評価レポートで「リーダー」を獲得  
ドキュメント中心の組織から、データ中心の企業へと進化してきたことを評価

英国Verdantix社のワークプレイス システム インテグレータ レポートにおいてスペシャリストを獲得

## ESG

2023年 4月 GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「優れたTCFD開示」に選定

6月 「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に2年連続で選出

7月 GPIFが採用する6つのESG指数（国内株式）すべてに選定 GPIF採用指数外でも、FTSE4Good Indexに20年連続選定

8月 Ricoh USAが「2023 Great Place To Work®」（働きがいのある会社）に認定

9月 TIME誌が選ぶ「World's Best Companies of 2023」に選出  
Environment, Social, Governance の3つの側面等から、世界のトップ企業750社を選出

Ricoh CanadaがCanadian Council for Aboriginal Business (CCAB)の  
「Progressive Aboriginal Relations™」でブロンズ認証を獲得

Ricoh CanadaがExcellence Canadaの「Healthy Workplace®」でゴールド認証を獲得

10月 岐阜県恵那市に所有する「リコー えなの森」が環境省の自然共生サイトとして正式認定

A3フルカラー複合機 RICOH IM C6010シリーズ、資源循環技術・システム表彰で奨励賞およびコラボレーション賞を受賞

- 2023年 4月 企業理念を改定、「“はたらく”に歓びを」を「使命と目指す姿」に定める  
リコーグループにおけるマテリアリティ(重要社会課題)を改訂し、21次中期経営戦略のESG目標を設定・公開  
リコーグループ サプライヤー・パートナー行動規範を改訂発行
- 6月 三井住友信託銀行とポジティブ・インパクト・ファイナンスの融資契約を2年連続で締結  
みずほ銀行と「Mizuho Eco Finance」の融資契約を締結
- 7月 スコープ3の削減シナリオを策定しGHG排出削減を強化 カテゴリー4(輸送)におけるGHG排出量をグローバルに可視化・削減  
リコージャパン、「サステナビリティレポート2023」「SDGsコミュニケーションブック2023」を発行
- 9月 「リコーグループ統合報告書2023」、「リコーグループTCFDレポート2023」、  
「リコーグループサーキュラーエコノミーレポート2023」および「リコーグループESGデータブック2023」を発行  
「技術倫理憲章」を制定 デジタルサービスの社会実装・運用に内在する倫理的リスクを抑制
- 10月 企業年金における「日本版スチュワードシップ・コード」の受け入れ表明



- 以上、私からの説明を終了させていただきます。